



# - Link “新風”

Vol.41  
(通算 第134号)

まだまだ寒い日もある今日この頃ですが、それでも少しずつ春の気配が感じられるようになって来ました。3月は旅立ちのシーズンでもあり、新たな道を進まれる方のご健勝を願うと共に、4月より仲間となられる方を温かく迎えたいものです。



『キングギドラの木』

## 今月の表紙

子供の頃、あこがれた怪獣「キングギドラ」  
そっくりな木があったので写真に撮りました。  
実物はもっとそれっぽいです。

(写真投稿 製造部 白鳥部長)

撮影日時: 2010年10月12日 撮影場所: 沼津市西浦足保

## 40期折り返し点



桜の木が当社構内に1本だけあります。それは、河津桜であり2月下旬に満開を迎え3月に入り葉桜に変わりつつあります。2羽のメジロが花に遊び、今年も間もなく春がやってくることを知らせてくれます。毎年の光景ですが桜の幹が一段と成長していることに感動を憶えます。今年の冬は、殊のほか寒く仕事にも支障になるほど春を待ちわびたわけですが、おかげさまで事故もなく今日を迎えていることは本当にありがたく感謝しています。今後もより工夫したKY活動で、“安全は何よりも優先”を実践していきたいものです。



7年余、共に同志として戦ってきた高津佳嗣殿が退社することになったことは、誠に残念でなりません。これもご縁。コツコツと築いていただいた財産を更に増やせるよう皆でがんばります。又、共に出会い協業のチャンスがあるかもしれません。ご家族のご多幸と事業家の夢が叶うよう祈念しています。元気でがんばってください。感謝！



2010年8月、日本郵政グループの郵便事業会社から改造EV車1030台を約35億円で受注したベンチャー企業(株)ゼロスポーツが破産したとの衝撃的なニュースが先日報道されました。納期遅れで日本郵政側が契約解除し、違約金7億円相当の請求も有り得るとのこの報です。ゼロスポーツは、納期変更は車種の変更を求められたからだと言い、対して日本郵政側は、変更はゼロスポーツからの提案で当方の責はないと反論しているようです。この背景には、随意契約、車種変更、郵政事業の1000億円の赤字、大量生産の経験なし、慎重な受注契約をすべきだったなどの言葉がある。社長が講演や出版で脚光を浴びている会社が一夜にして奈落の底に落ちていく、何とも悲しいことで。解雇された社員をEVベンチャーのナノオプトニクスが雇用に名乗りを上げているのが救いだという。この事態を他山の石として、我が社も受注物件(額の大小にかかわらず)については、心して契約は結ばなくてはならないことを改めて痛感します。社長の行動もしかりです。



公私ともに大変お世話になった青木隆一先生(横浜国立大学名誉教授)が急逝された。享年87歳。私が、青木先生とお付き合いさせていただくようになったキッカケは、(社)日本粉体工業技術協会が組織する分科会の一つであるバルクハンドリング分科会の幹事を仰せつかったときです。約22年前に遡る。未だその頃の私は39歳で右も左もわからない若造で、それが協会のもっとも注目されている分科会の幹事を仰せつかったわけですから大変不安を感じていました。コーディネータである青木先生は、そんな若造にやさしく接して下さりありがたかったことをとてもよく憶えています。1993年、私が代表幹事を仰せつかることになりさらに深く教をいただきました。バルクハンドリング分科会をどうしたら更に充実したものができるか、会員の皆さんが喜んでもらえるかなどをしばしば議論したものでした。お酒を飲みながら皆と語り合うことも楽しみの一つだったのでしょう。1999年にコーディネータを退任された後もお付き合いいただき、年に2回ほど青木先生ご夫妻と私の家内と4人でクラシックやオペレッタを鑑賞した後、会食して楽しい時を過ごしたものでした。お誘いを受けた当初は、私はもっぱら居眠り専門でしたがそのうち徐々に興味が湧いてきて飲食だけではなく、鑑賞することが楽しみになってきましたから面白いものです。食わず嫌いというか、やはり現場に行ってみることが大事なんでしょう。そのようなわけで青木先生とのお付き合いを通し、ずいぶんと人生を教えられてきたような気がします。感謝、感謝です。合掌。



今月から下期に入ります。確認しておきたいことは、我々はプロであるゆえ、できない理由をゴタゴタ並べる前にやり遂げる強い意思を持って愚直に立てた計画を推し進めるのみということです。桜の幹のように年々たくましい会社になり10年先、20年先わが社で働く人たちが幸せになってもらえるよう願うばかりです。

### 心に残る言葉

愚妻の弟で歯科医師の彼曰く、

「この子は、病気ではなくて心臓に特徴をもった子供なんだな」

南直哉(福井県霊泉寺住職)著「語る禅僧」の一節

『僧となってから、私は一度、先天性の脳性マヒの人と旅をしたことがある。その折、彼はこう言った。

「こういう体をしていますとね、みんなから大変ですね、とか言われるんですけどね。ボク、生まれてから今までこれ以外の体を知らないから何が大変なのか分からないんですよ」

社長 赤堀肇紀